

科目名	行動科学基礎	科目コード	1529
(英訳)		Introduction to the Behavioral Sciences	開講学期 曜日・時限
対象学年	2年生	単位数	2単位
受講資格	歯学科	募集人員	
担当教員	中村千賀子・市川和希子・各務仁美・久田登志子・椎名恵子・最首悟・小沼満喜子		

●授業の目的・内容

日常生活、健康や病気をめぐる人間の行動の理解を進める行動科学は、欧米を中心とする医療系の大学では基礎科学、臨床科学と並んで教えられる領域です。行動科学は、人間の身体的な側面だけではなく、心理・社会的側面も重視し、生きがい、信条、価値観などを大切に行動する人間を、そのまま、より広く、より深く理解することを目的としています。この「行動科学基礎」では、本学に入学した学生が医療人として活動する以前に、まず、コミュニケーションと人間関係を行動の基盤としてとらえ、ひとりの人間として、自分を知る、相手を知る、互いにわかりあうことを体験し、人間理解について考え、意識して話し、行動し、振り返る機会を持つことを目的とします。夏休みには、健康教育活動現場、高齢者施設、心身障害者施設、在宅ケア関連施設、医療機関、養護施設などさまざまな施設の活動に参加しながら、多くの人々と出会い、自分のこれまでの判断基準や人間観・価値観を振り返る体験をめざします。「行動科学基礎」では、履修生が実際の行動と体験を通して、これまで気づかなかった視点に気づき、行動し、他の人々と適切な人間関係を作り上げられるようになることをめざします。

1学期には、学外で活躍中の医療者、患者さんなどの講義やビデオなどをきっかけにして、人間やその生活の諸側面を考える機会を持ちます。今年度のテーマは「人間と福祉」です。履修生は適宜少人数のグループにわかれ、授業を受けます。クラス分けや教室に充分注意をしてください。

夏休みの体験学習では、利用者の日常生活の場である各施設・機関での活動に参加し、多くの人々に出会い、ともに行動し、さまざまな体験をさせていただきます。そこで、履修生は自分自身をも含めての人間について考えるきっかけを得ることが期待されています。施設は6月末までには決定する予定です。あらかじめ希望調査はしますが、決定は担当教師が行います。施設・機関によって交通費のほか宿泊費、食事代、諸費用などがかかる場合は履修生の個人負担となります。

1・2学期とも20名弱の少人数のクラスにわかれ、講義の後に感想を話したり意見を交わしたり、意識して人と話し、互いに理解しあうためのコミュニケーションを体験的に会得してもらいます。夏休み後は、体験学習での様子などをグループで話し合い、各人の体験の理解を深め、整理する時間を持ちます。「まとめ」を作成した後は、コミュニケーション演習を行い、人間関係能力におけるそれぞれの課題を明確にします。

目標：

1. 履修生は他者との関係を通して、自分自身の中に起こってくる考えや感情、および、その変化を意識できる
2. 自分の中に起こってくる感情を、必要なときには言葉で表現することができる
3. 必要に応じて、その感情を相手に伝えることができる
4. 人と話すなかで、相手の話を聴き、確かめ、相手をそのまま理解することを体験できる
5. 人と互いに理解しあう、あるいは「人との出会い」の意味を体験的に理解できる

●授業計画

1学期：

1. オリエンテーション
2. グループ演習：自分を話す
3. 講義：歯科医師の特徴—榊原悠紀田郎講師
4. グループ・ディスカッション
5. グループ・ディスカッション
6. 講義：乳がんを経験して—新野まりあ講師
7. グループ・ディスカッション
8. グループ・ディスカッション
9. グループ・ディスカッション
10. グループ・ディスカッション
11. 体験学習に向けて：準備クラス
12. 体験学習に向けて：準備クラス